

Power Automate のロボティック プロセス オートメーション: UI フロー

この簡易ガイドは、すべてのマイクロソフト ライセンス プログラムに適用されます。

目次

概要	1
詳細	1
要旨	1
ドキュメントとリソース	2
よく寄せられる質問 – 概要	2
よく寄せられる質問 – 一般	5
よく寄せられる質問 – ライセンスと価格	6

概要

この簡易ガイドでは、マイクロソフトが提供する Power Automate の新しいロボティック プロセス オートメーション (RPA) 機能である UI フローについて概説します。現在、この機能は一般提供されています。

詳細

要旨

UI フローは Power Automate の RPA 機能です。これを使用すると、技術系エンド ユーザーやビジネス エンド ユーザーなどの企業のお客様は、レガシ アプリケーションの反復的なタスクを自動化し、拡張性に優れた安全な方法で業務を簡素化することができます。マウスクリック、キーボードの使用、データ入力などの UI 操作をステップごとに記録しておき、それらのアクションを再生することで、作業を効率化できます。

RPA 機能には、有人 (パーソナル オートメーション) と無人 (エンタープライズ オートメーション) の 2 つのオプションがあります。

- 有人オプションでは、オンデマンド タスクを自動化して効率化を図ったり、デスクトップや Web 上の手動の個別タスクを自動化したりできます。
- 無人オプションでは、社内プロセスを大規模に自動化したり、大量のタスクや面倒なタスクの自動化を促したりして、人の手で操作する必要を削減できます。

有人型と無人型の機能やライセンスのオプションについては、このドキュメントで後ほど詳しく説明します。

ドキュメントとリソース

- [価格とライセンスの詳細](#)については、[価格ページ](#)とライセンス ガイドを確認してください。
- [利用開始の方法、要件、その他](#)については、[こちら](#)を参照してください。
- [RPA のランディング ページ](#)は[こちら](#)です。概要ビデオも視聴できます。
- [90 秒ほどにまとめたシナリオ ベースの UI フローの概要ビデオ](#)は[こちら \(英語\)](#)をご覧ください。
- [Power Automate の詳細とパートナーの最新情報](#)については、[Charles Lamanna のブログ記事 \(英語\)](#)をご覧ください。

よく寄せられる質問 – 概要

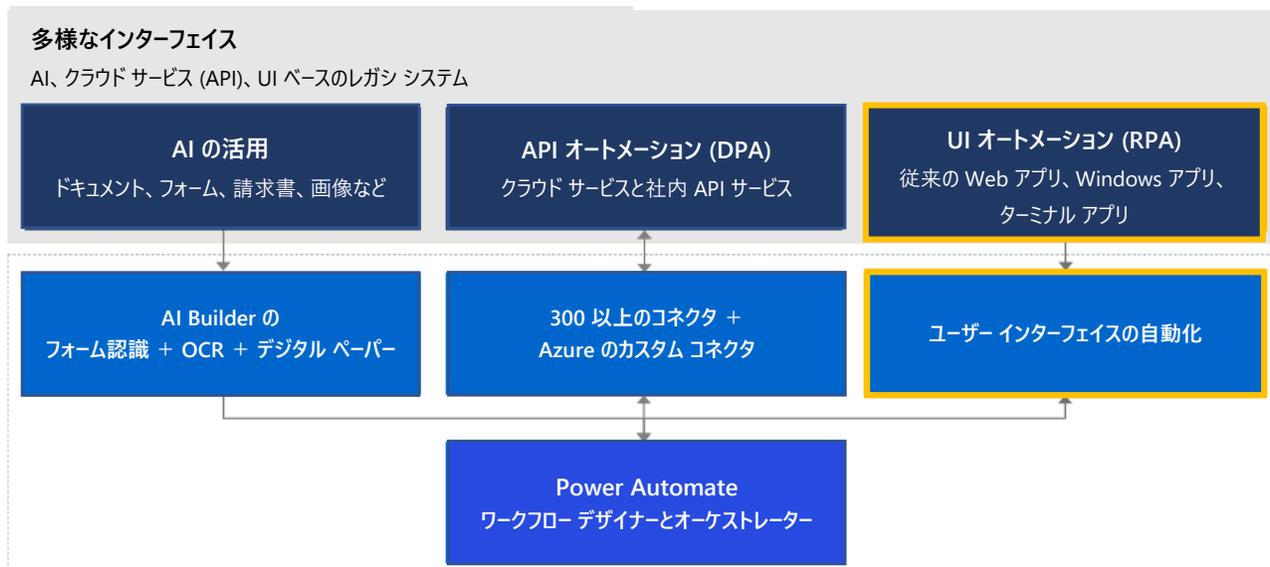
Q1: Power Automate に RPA が導入されたことがなぜ重要なのですか。

A: Power Automate は、オンプレミス システムとクラウドのエンドツーエンドの自動化を可能にする単一のソリューションです。Power Automate は主に次の 3 つの領域に対処するものです。

- [インテリジェントなデータ認識 \(AI\)](#): 紙ベースの請求書や画像など、構造化データや非構造化データを簡単に読み取り、他の重要なビジネス アプリケーションと統合できます。エンド ユーザーは [AI Builder](#) のフォーム処理などの AI 駆動型の機能を使用して、アナログ ソースのデータを解析することができます。
- [300 以上の最新アプリやサービスに接続 \(API 自動化\)](#): クラウドやオンプレミスのアプリやデータベースに保存されている情報を簡単に扱うことができます。そのまま使用できる 300 以上のコネクタと、あらゆる社内サービスにノーコードで接続できる機能を提供し、一般的なアプリや企業の API へのネイティブな接続を可能にします。
- [RPA で API なしで社内アプリに接続 \(UI 自動化\) \(英語\)](#): 従来のアプリの中には、API 接続に対応していなかったり、対応するには高額な費用がかかってしまうものがあります。RPA を使用すると、エンド ユーザーはマウス クリック、キーボード入力、データ入力などの手動タスクを記録して、それらのアプリでの作業を自動化できます。その後、そのステップの再生を自動化し、さらに複雑なプロセスの自動化と統合することができます。
- マイクロソフトは、AI と API コネクタを使用した機能だけでなく、RPA を加えて自動化ポートフォリオを完成させ、Power Automate を今日のクラウドで利用可能な最も包括的な自動化プラットフォームにしています。



自動化ポートフォリオの構成



MICROSOFT CONFIDENTIAL

Q2: UI フローと呼ばれる RPA 機能の主なメリットは何ですか。

A: Power Automate の UI フローは、マイクロソフトが提供する UI オートメーションのための RPA 機能です。UI フローが導入される以前の Power Automate は、主に、API を備えたビジネス プロセスを自動化するデジタル プロセス オートメーション (DPA) の分野で利用されていました。UI フローを利用すれば、組織はフロント エンドからしか駆動できないレガシ アプリケーションを自動化できます。つまり、お客様があらゆるビジネス プロセスを自動化できるようになります。[UI フロー](#)では、マウス クリック、キーボードの使用、データ入力などの UI 操作をステップごとに記録しておき、それらのアクションを再生できます。

組織では以下のことが可能になります。

- API のないアプリやサービスにまたがる自動化を単一プラットフォームで実現できる
- 安全なクラウド環境で UI フロー スクリプトをカスタマイズ、構築、管理できる
- ステップごとに記録して再生する機能を備えた、ローコード エクスペリエンスを利用できる
- UI フローと通常のフローを組み合わせ、UI オートメーションを API ベースのオートメーションや AI Builder による AI とシームレスに統合できる

主な特長は以下のとおりです。

- UI オートメーション デザイナー: Windows および Web アプリケーションのエクスペリエンスに最適化された設計環境を提供します。これには、記録やスクリプト編集の機能が含まれます。
- UI フローのオーケストレーション: トリガー (メール受信、Teams メッセージなど)、スケジュール、オンデマンドといったタイミングでアクションを実行できます。
- GUI オートメーション ランタイム: アクションを連携させたり、アクション間でデータを渡したり、アクションを実行したりするコア エンジンです。

Q3: Power Automate はマイクロソフトのエコシステムにどのように適合しますか。

A: Power Automate をマイクロソフトのクラウド ベースのアプリケーションと組み合わせることで、Azure、Dynamics 365、Microsoft 365、Microsoft Power Platform にまたがる完全に統合された自動化プラットフォームが実現します。これらのアプリやサービスはすべて Power Automate とネイティブに統合されているため、IT 部門の意思決定者は、データのセキュリティとアプリの運用を確実にコントロールすることができます。

- **Azure Active Directory (AD):** Azure AD を使用すると、最も安全な統合型クラウド サービスを構築できます。シチズン デベロッパーからプロの開発者まで、だれでも簡単に利用できます。
- **データ損失防止 (DLP):** 組織のデータの意図せぬ漏えいを防ぐ強力な DLP ポリシーを活用できます。管理者が DLP ポリシーを作成する際の手順については、「[データ損失防止 \(DLP\) ポリシーを作成する](#)」を参照してください。
- **Microsoft 365:** チームワークのハブである Microsoft Teams をはじめ、Microsoft 365 全体でアプリの統合やワークフローの自動化を行うことで、ビジネス プロセスを効率化できます。Microsoft 365 を使用すると、使い慣れたアプリ間でのルーチン タスクやプロセスの自動化、カスタム通知の設定、ファイルの同期、データの収集などが可能です。
- **Power Platform:** Power Automate は Microsoft Power Platform の一部で、インテリジェントなプロセス オートメーション (Microsoft Power Automate)、ローコード アプリ開発 (Power Apps)、ビジネス インテリジェンス (Power BI)、そして Power Virtual Agents が統合されています。これらの機能がネイティブに統合されているため、お客様はビジネスのあらゆる面を変革するのに十分な機能が手に入ります。
- **Dynamics 365:** Power Automate を使用すると、フィールド サービス技術者の派遣から請求書の処理まで、Dynamics 365 ソリューション全体のプロセスを自動化し、インテリジェントなワークフローで日常業務を最適化できます。
- **Azure:** [Azure API Management](#)、[Azure Functions](#)、[Azure Logic Apps](#) とネイティブに統合することで、より多くの技術開発者が Power Automate の機能をより洗練された技術レベルの高いアプリケーションに昇華することができます。

Q4: Power Automate と Power Platform を組み合わせるとどのようなメリットがありますか。

A: [Microsoft Power Platform](#) は Power BI、Power Apps、Power Automate、Power Virtual Agents で構成されますが、単にそれらの寄せ集めではありません。すべての製品を互いに接続し、さらに Office 365、Dynamics 365、Azure、その他何百ものアプリに接続することで、エンドツーエンドのビジネス ソリューションを実現できます。

- Power Automate と Power Apps を組み合わせると、ユーザー データの共有や収集が可能なノーコード/ローコードのカスタム アプリをだれでも作成でき、さらに Power Automate でワークフローを簡単に自動化したり、ビジネス ロジックを実装して簡単にアプリを構築したりできます。
- Power BI を使用すると、だれでも自動でビジネス データを更新して視覚化し、Power Automate で自動アラートを送信して、インサイトから行動を起こすことができます。
- 新しい Power Virtual Agents を使用すると、AI を活用したチャットボットを簡単に作成して公開し、Power Automate でそのプロセスを自動化し、アクションを実行することができます。
- Power Automate の RPA は、従来のアプリケーションと最新のソリューションの橋渡しをすることで、ローコード アプリケーションの機能をさらに一段階強化できます。これらの個々の製品はすべて相互に連携して他にはないサービスを提供し、組織のスケールアップを支援します。

よく寄せられる質問 – 一般

Q1: UI フローのしくみを教えてください。

A: Power Automate は、自動化をオーケストレーションするサービスであることに変わりはなく、API や AI 処理の実行環境として機能し、セキュリティ管理と運用を一元化します。Power Automate を利用することで、レガシ アプリケーションが実行されるオンプレミスのマシン上にランタイム エージェントを配置し、デスクトップ エージェントと Power Automate サービス間の安全な通信を可能にします。Power Automate と RPA を組み合わせれば、コネクタを使って API を備えた最新アプリケーションを自動化することも、API がない、または不十分なレガシ アプリケーションを UI フローで自動化することもできます。さらに、レガシ アプリ、最新アプリ、手動プロセスを UI フローで組み合わせることもできます。

詳細については、[UI フローのドキュメント](#)を参照してください。

アプリケーションの種類	機能	メリット
API を備えた最新のアプリやサービス	コネクタ	信頼性が高い
レガシ アプリ (API なし)	UI フロー	作成が容易

RPA の 2 種類の UI フロー: 「有人モード」と「無人モード」

- 有人モードの UI フローでは、デスクトップの操作を自動化できるため、実行中にアクションを目の前で確認できます。
- 無人モードの UI フローでは、物理的に別な場所 (別の部屋、Windows Desktop Virtualization サービスによるクラウド上の仮想デスクトップなど) にあるデスクトップを自動化できます。この場合、指定した Windows マシンに UI フローでログインし、必要な自動処理を実行してからログアウトできます。
- UI フローでは次の 2 種類のアプリケーションを自動化できます。
 - **Windows アプリケーションの自動化:** Windows デスクトップ上の操作を記録し、手動タスクを、手順ごとの説明付きの自動ワークフローに変換します。一般提供時点では、自動化はアプリがユーザー補助エクスペリエンスをサポートしているかどうかに依存し、代替オプションとして座標ベースで再生する機能が備わっています。
 - **Web ベース アプリケーションの自動化:** Power Automate と統合された Selenium IDE エクスペリエンスを使用して、Web サイトを自動化できます。

Q2: UI フローの技術的要件を教えてください。

A: Power Automate は、Windows 10 と Windows Server 2019 のデバイスでサポートされます。記録は物理マシン上で行うことが想定されており、再生は物理マシンまたは仮想マシンで実行できます。マシンには、自動スクリプト設計用のブラウザー拡張機能とデスクトップ コンポーネントをインストールする必要があります。再生には、UI オートメーション ランタイムのインストール、オンプレミスのデータ ゲートウェイのインストールと設定が必要です。サポートされているブラウザーは、最新版の Google Chrome と Microsoft Edge (Chromium) です。

Q3: 1 台の VM で実行できる UI フローはいくつですか。

A: 各コンピューターで一度に実行できる自動処理は 1 つだけです。ただし、1 台のコンピューターで複数の自動処理を順次実行するように設定することは可能です。

Q4: 一般提供ではどの地域と言語がサポートされていますか。

A: すべての商用クラウドの地域がサポートされています (北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地域、南米、カナダ、日本、オーストラリア、イギリス、インドの各地域)。また、RTL 言語 (アラビア語、ヘブライ語) を除く、CDS がサポートされている 43 の言語で利用できます。

Q5: プレビューを利用しているユーザーの場合、一般提供に伴い、既存の UI フローのデータは失われるのですか。

A: 一般提供版ではプレビュー版で作成された成果物をサポートしており、既知の問題はありません。

よく寄せられる質問 – ライセンスと価格

Q1: RPA は Power Automate の中でどのようにライセンスを取得するのですか。

A: 有人 RPA と無人 RPA のライセンスは、Power Automate の 2 つの新しいオファーを通じて取得できます。

- **有人 RPA を含む Power Automate per user プラン:** ユーザーがワークステーション上で有人 RPA ボットを実行できます。このプランは、レガシ アプリケーションと最新のアプリケーションに対応できるように最適化されており、ユーザーは独自のニーズに基づいて UI オートメーションと API オートメーションを組み合わせることができます。
- **Power Automate 無人 RPA アドオン:** 対応する基本オファーは、有人 RPA を含む Power Automate per user プラン、または Power Automate per flow プランです。組織は必要に応じて、自律的に動作するボットの数を増やすことができます。

Q2: 無人 RPA アドオンはユーザーに割り当てられるのですか。

A: いいえ。無人 RPA アドオンは、オペレーティング システム環境 (OSE) に割り当てられます。

Q3: RPA オファーにはどのような権利が含まれていますか。

A: 詳しい情報は、[こちらの製品ページ](#)や[ライセンスガイド](#)を参照してください。

Q4: Power Automate に RPA が導入されると、RPA に固有のサービス上限が追加されますか。

A: いいえ。主要サービスの上限と権利は[こちら](#)でご確認ください。

Q5: 多くの RPA ベンダーは、ボットの作成/プロセス記録、オーケストレーション、管理、その他の関連コンポーネントのライセンスを個別に提供していますが、これらの機能は RPA のライセンスに含まれていますか。

A: はい。有人 RPA を含む Power Automate per user プランと Power Automate 無人 RPA アドオンの両方に、UI フロー作成、ボット オーケストレーション、管理の機能が含まれています。

Q6: 運用環境/非運用環境でのボットの開発やテストにはライセンスが必要ですか。

A: ボットはマシン上で GUI ベースのプロセスを実行する存在です。そのため、現在 Power Automate に存在するフローの開発/テスト/運用がライセンスの対象となります。UI フローはソリューションを意識したものとなるため、そうした UI フローは編集可能です。ボットはライセンスで作成したり管理したりする必要のあるものではありません。

Q7: 仮想マシンで無人ボットを実行するのに必要なインフラストラクチャについてはどうなりますか。その分は無人 RPA アドオンに含まれますか。

A: 無人 RPA ボットを VM で実行するには、別途必要なコンピューティング リソースの購入が必要です。

Q8: Dynamics 365 や Office 365 のユーザーは、Dynamics 365/Office 365 のライセンスからシードされた Power Automate 機能の一部として RPA 機能にアクセスできますか。

A: いいえ。RPA 機能を利用するには、有人 RPA を含む Power Automate per user プランと Power Automate 無人 RPA アドオンの両方またはいずれかのライセンスが必要です。

Q9: 「ボット」とはどのように定義されますか。ボットと UI フローの違いは何ですか。

A: 「ボット」とは、物理的または仮想的なデスクトップ環境上で動作する GUI ベースのプロセスのことです。

UI フローは、RPA 市場をターゲットにした Power Automate の機能であり、API ではなく GUI を介してレガシ アプリを自動化することを可能にします。UI フローから実行されるプロセスは、より広範な API ベースの自動化シナリオの中に組み込まれていたり、スタンドアロンで存在していたりします。

Q10: 有人シナリオと無人シナリオでのボットの実行にはどのような制限がありますか。

A: 有人ボットは、ローカルやリモートのワークステーション上の明示的なユーザー操作によってトリガーされ、同じワークステーション上でユーザーと共に動作しなければなりません。ボットは複数のプロセスを実行できますが、各プロセスは順番に並べて順次実行する必要があります。

無人ボットは、ユーザーの操作を必要とせずに自律的に動作し、ローカルやリモートのワークステーションに配置できます。また、有人ボットと同様に、無人ボットも複数のプロセスを実行できますが、同じく各プロセスは順番に並べて順次実行する必要があります。1 つのプロセスで複数のインスタンスを同時実行するには、インスタンスごとに追加の無人ボットが必要です。

Q11: ユーザーが作成できる UI フローのプロセス数に上限はありますか。

A: いいえ、ありません。ただし、有人ボットも無人ボットも、一度に 1 つのプロセスしか実行できません。同じボットで複数のプロセスを実行するには、順番に並べて順次実行する必要があります。

Q12: RPA の試用版は利用できますか。

A: はい。Power Automate の試用版にサインアップしたユーザーは、RPA 機能にアクセスできます。UI フローのページをご確認のうえ、こちらでお試ください。

Q13: 「Microsoft 365 E3 – 無人ライセンス」とは何ですか。Power Automate の RPA プランに加えてこのライセンスが必要な場合を判断するには、どうすればよいですか。

A: Microsoft 365 E3 – 無人ライセンスでは、ロボティック プロセス オートメーション用の単一の物理 OSE または仮想 OSE でのみ Microsoft 365 E3 スイートを使用できます。このライセンスは、Microsoft 365 E3 アプリケーションにアクセスしたり操作したりするボットが無人ボットとして実行されている場合に必要となります。